

「街道観光と文化創造」これからの展望 サスティナブル・トラベル・KAIDO街道

○発表者：原田伸介（日本イベント業務管理士協会 中部地域本部長）

共同研究者：（イベント学会 エバレットKブラウン、稲本正、Teshigoto Gumi 井上直）

キーワード：「感性」「匠の精神」「歩く事そのものが観光」「文化のお遍路」「工芸遊山」

【1】目的：江戸時代の街道は、総延長 15,000Km のネットワークで日本の津々浦々を結んでいた。参勤交代や旅の原点と云われる伊勢詣でなどの往来により、街道を通じた人や物、情報の大交流が興り、わが国独自の文化や伝統、習俗、歴史景観が沿線に育まれた。その背景には、それぞれの土地ごとに育まれた固有の「人」「物」「文化」の歴史があった。日本のこれまでの観光は、昭和に形成された宴会旅行をベースにして、大勢で温泉に入って御馳走を食べて、饅頭をお土産に買って帰ると云う「旧来型のツーリズム」から抜け出せずに来た。見えつつあった限界をコロナ禍が顕在化させた。従来型の「与えられる観光」から自分で見つけ出して何処で何をするかと云う「探し出す観光」に変わって行くはずである。旅のスタイルは、「どこへ行く？」から「その旅で何をする？」が重視されつつある。美しい街道の姿だけでなく、その背後にある歴史や文化等の”知的好奇心”を刺激する情報の発信が、街道を訪れてそこで何をするかという旅の目的を提示する事につながる。旧来型でない新しい持続可能な観光の実現に向けて環境負荷の少ない、”歩くこと”そのものを観光資源とする「街道観光」に着目し、街道を歩きながら、そこに眠る歴史や文化を掘り起こす体験（カルチベイト）を中長期間滞在しながら提供するプログラムを作成し、新しい観光資源の商品化、サービス化に繋げたい。そして、その発掘したプログラムを繋げて行く事で「文化のお遍路」の様な旅「サスティナブル・トラベル・KAIDO 街道」を新たな観光計画として事業化して行きたい。

【2】方法

「地域の魅力を発信するプロモーション」

国内はもとより世界に向けて”地域の魅力”の発信を行う事が必要となる。その手段として日本文化に造詣の深い発信力のある人によるプロモーションの実施や、海外に向けて日本の観光情報を発信し、満足度が高いツアー企画で人気が高い旅行商品の開発を行う。

「受け皿となる観光コンテンツの整備」

重要なのは、まず今ある観光資源に磨きを掛ける事である。ブランド力を高め歴史や文化に裏付けられた街道の魅力を伝える為には、その背景にあるそれぞれの地域が持つ興味深い物語を紹介しなくてはならない。街道沿線に今も数多く点在する、いにしえから眠る根の深い埋もれた文化資源を、歴史を遡って発掘（カルチベイト）し、断片を集め、現代の新しいテクノロジーやエッセンスも加え編集しノスタルジーだけではない、その土地固有の「物語」として再生する事を”新たな観光資源開発プログラム”の手がかりとする事から始めたい。街道にテーマ性を持たせる旅とする為に、それに沿った体験、交流プログラムを用意した「文化の宿場町」では地元産や歴史・文化にこだわった食材を使い、地域の

風土と文化から生れた調理方でフードロスの少ない料理提供したり、SDGs が体験が可能な事も取り込む。プロモーションとコンテンツ整備を平行に進め「新しい観光資源の商品化、サービス化」を街道沿線の複数個所で行う。

【3】結果：「大人のための SDGs 街 Café」を継続的に行う事で、「今後観光産業はどの様
に変わって行けるのか」という問題を、国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点からも
捉えそのケーススタディとして、街道を通して古の文化を掘り起こす事をテーマにしたサ
スティナブル・トラベル・KAIDO 街道を通してイベントの力による課題解決を試みた。

I、東海道中膝栗毛 藍の文化による有松の活性化「有松絞文化×藍で生まれる感性での演出」

開催会場：有松鳴海絞り 名古屋市有形文化財竹田嘉平商店三番蔵

有松鳴海宿 サスティナブルトラベル KAIDO 街道 藍で巡る街道街歩き

竹田邸三番蔵と将軍家茂公が訪れた裁松庵でのセミナー

有松絞を中心に日本産藍づくしの街づくりを楽しむ。有松で古くから有松絞りに使っていた藍を食するイベントを開催する。徳島大学が開発した「藍パウダー」を使ったオリジナル商品の開発。有松内の料理店で提供し観光客が散策しながら有松絞りの宿場を巡り” 食べる藍” を楽しんでもらう。又、東海道中膝栗毛の弥次喜多が買った有松絞りの手拭の復元という物語性を持った観光資源開発を時代考証と工芸士の制作協力で試みた。

II、春夏秋冬「工芸遊山」 in 美濃「暮らしに息づく五節句に、工芸で野遊びを楽しむ」

開催会場：美濃和紙 WASHITA MINO

美濃和紙の里 サスティナブル・トラベル・KAIDO 街道 うだつの上がる町並み街歩き

紙商の街での「工芸夜咄」～冬至 点心茶会～

「四季の変化に趣向を凝らした工芸を楽しむ」という文化を今一度取り戻すべく「五節句」「二十四節気」でのそれぞれの行事機会に現代の文脈に合う工芸の選択で” 工芸を楽しむ四季の移ろい” ” 工芸のある暮らし” を日常に復活させる新しい観光プログラムを地域に作り出す。

【4】考察：「歩く×匠の精神×感性＝文化の再構築・再編成」

サスティナブル・トラベル・KAIDO 街道は、歩いて観光をするという究極のエコロジー性を持った、日本の文化を訪ね断片を掘り起こし現代の感性に通用すべく再構築・再編成する新しい観光計画である。エバレット K ブラウン氏も、古来日本人は「モノをただのモノでなくする」のが得意だったはずだ。それこそが「匠」の精神だった。そして人を幸福にするのは物質でなく感性だ。そしてこの「感性」は日本人の強みでもあったはずだ。ちょっとした、しかし奇想天外な工夫で日常を豊かにする、まさに「匠精神」それが日本の魅力でもあったはず。「感性」という目に見えない観光資源、そしてそれを具体化する「演出」に目を向ける事が必要だと云っている。

【5】結論

将来的には、発掘した様々な文化資源が新しい観光交流プログラムとなり、文化のお遍路として街道沿線の中長期で巡る新しい観光計画のモデルとなる文化創造事業として行く。